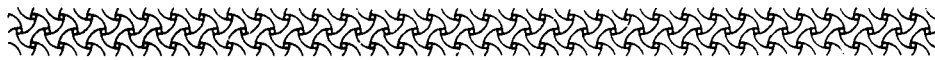




学内広報



2002. 3. 13
東京大学広報委員会

東京大学外国人留学生、留学生支援団体と 総長との懇談会



(4 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
学術研究奨励資金による国際交流助成事業の採択決まる、(有)タケダ理研代表取締役武田郁夫氏に紺綬褒章の伝達及び感謝状の贈呈、東京大学外国人留学生、留学生支援団体と総長との懇談会、第2次学力試験（前期日程）終わる、第2次学力試験（前期日程）の合格者、同（後期日程）第1段階選抜結果の発表	
部局ニュース	6
2001年度留学生センター日本語教育集中	

コース・特別コース（冬学期）（第33期生）の修了証授与式行われる	
掲示板	11
平成14年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について、第2回ミュンヘン大学・東京大学シンポジウム「大学の倫理」のご案内、社会情報研究所教育部研究生募集、平成14年度総合図書館オリエンテーションのお知らせ、総合図書館開館時間変更について（お知らせ）	
訃報（宮川正、高橋延清名誉教授）	14
淡青評論「大学——この奇なるもの」	16

≡ 一般ニュース ≡

学術研究奨励資金による国際交流助成事業の採択決まる

平成14年度国際交流助成事業のうち次の5事業について、以下のとおり助成することを決定しました。

1. 海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業

部 局 名	代表者職・氏名	拠 点 の 名 称	設 置 場 所
生産技術研究所	所長 坂内 正夫	都市基盤安全工学アジア研究センター	アジア工科大学院社会基盤工学科(タイ)
生産技術研究所(継続)	所長 坂内 正夫	東京大学マイクロメカトロニクス国際研究センターヨーロッパオフィス	パリ第6大学情報学研究所内(フランス)

2. 国際共同研究経費助成事業

部 局 名	代表者職・氏名	研 究 課 題	相 手 機 関 名
大学院理学系研究科	教授 深田 吉孝	光感受性の時計細胞株Z3を用いた概日時計遺伝子の光依存的発現制御メカニズムの解明	フランス国立科学研究センター(CNRS)(フランス)
環境安全研究センター	教授 山本 和夫	大学内における有機系排水・廃棄物のミニマムエミッションを目的とした管理システムの開発	ソウル国立大学(韓国)
大学院薬学系研究科(継続)	助教授 黒瀬 等	新規三量体型Gタンパク質(G12/13)を介した心肥大・心不全形成のメカニズム解析	University of Illinois at Chicago(アメリカ)
大学院新領域創成科学研究科(継続)	教授 影本 浩	人工魚の設計法に関する研究	マサチューセッツ工科大学(アメリカ)
海洋研究所(継続)	教授 玉木 賢策	中央海嶺に関する学際的国際共同研究	Woods Hole Oceanographic Institute(アメリカ), Southampton Oceanography Center(イギリス), University of Pierre et Marie Curie(フランス), University Bremen(ドイツ), Vernadsky Inst. of Geochemistry(ロシア)

3. 国際交流推進経費助成事業(前期募集分)

部 局 名	代表者職・氏名	相 手 機 関 名	派 遣 者 数	招 へ い 者 数
大学院農学生命科学研究科	教授 辻本 元	マッセイ大学(ニュージーランド)	5	6
大学院新領域創成科学研究科	助教授 長崎 晋也	ローゼンドルフ中央研究所(ドイツ)	2	2
社会科学研究所	所長 仁田 道夫	ベルリン自由大学東アジア研究所(ドイツ)	2	
医科学研究所	助教授 中井 謙太	ストックホルム大学(スウェーデン)	1	

4. 長期派遣経費助成事業

部 局 名	申請者職・氏名	派 遣 先
医学部附属病院	助手 野村 幸世	ジョージア州立医学大学 (アメリカ)
大学院人文社会系研究科	助教授 一ノ瀬正樹	オックスフォード大学 (イギリス)
大学院農学生命科学研究科	助手 難波 謙二	メイン州立大学 (アメリカ)
大学院教育学研究科	助教授 平野 裕一	University of Western Australia (オーストラリア)

5. 若手研究者派遣経費助成事業

部 局 名	申請者職・氏名	派 遣 先
大学院医学系研究科	助手 斎藤 逸郎	チェコ
大学院工学系研究科	助手 栗栖 太	オーストラリア
大学院工学系研究科	講師 加藤 浩徳	中国
社会科学研究所	助手 相澤美智子	アメリカ
物性研究所	助手 花咲 徳亮	中国
アイソトープ総合センター	助手 大矢 恭久	アメリカ

有タケダ理研代表取締役武田郁夫氏に紺綬褒章の伝達及び感謝状の贈呈

昨年工学系研究科等の研究・実験棟「武田先端知ビル」建設基金40億円を本学にご寄附いただきました、有限会社タケダ理研代表取締役武田郁夫氏に対し、3月5日(火)総長室で宮島副学長、廣渡総長特別補佐、大垣評議員、坂本事務局長ほか関係者出席のもと、佐々木総長から紺綬褒章の伝達と感謝状の贈呈が行われました。



佐々木総長から紺綬褒章を伝達される武田郁夫氏



前列左から大垣評議員、武田計測先端知財団鈴木事務局長、武田郁夫氏、佐々木総長、宮島副学長、廣渡総長特別補佐 後列左から菊池総務部長、坂本事務局長、飯塚工学系研究科等事務部長

東京大学外国人留学生、留学生支援団体と総長との懇談会

「東京大学外国人留学生、留学生支援団体と総長との懇談会」が、去る平成14年2月12日(火)午後6時から東天紅上野店で開催されました。

この懇談会は、本学に在籍している外国人留学生、留学生支援団体関係者、各国大使館員が佐々木総長、副学長、総長特別補佐、留学生センター長、各部局長をはじめとする本学教職員と親しく懇談し、交流を深めることを目的としています。

当日は、本学に在籍する2,071人(平成13年11月1日現在)の外国人留学生のうち約400人、さらに支援団体招待者及び学内教職員を合わせ総勢約610人の出席者により盛大な懇談会となりました。

懇談会は、佐々木総長の挨拶に始まり、留学生交流委員会委員長である廣渡総長特別補佐の発声により乾杯が行われ、その後、外国人留学生を代表して、大学院人文社会系研究科 コウ エイコウさん(中国)から日本語での挨拶が述べられました。

互いに異なる文化を持つ多くの国・地域から集まった留学生同士、また、各国大使館並びに支援団体のメンバー、教職員とのなごやかな歓談が進む中で、留学生に

よるアトラクションとして、工学部 カール エルストロームさん(スウェーデン)によるサクソフォン演奏の披露もあり、午後7時半に散会となりました。



留学生を代表して挨拶を述べる、中国からの留学生、大学院人文社会系研究科・コウ エイコウさん

(研究協力部留学生課)

第2次学力試験(前期日程)終わる

平成14年度本学入学者選抜の第2次学力試験(前期日程)が、2月25日(月)、26(火)、27日(水)の3日間にわたって実施された。文科一・二・三類は駒場キャンパスで、理科一・二・三類は本郷キャンパスで、第1段階選抜に合格した8,534人のうち8,464人(欠席70人)が最後の関門に挑戦した。合格者の発表は、3月10日(日)に行われる。

各科類の最終受験者数等は、次のとおりである。

第2次学力試験(前期日程)各科類別受験者数等

科 類	募 集 人 員	第1段階選 抜合格者数	欠席者数	受験者数
文科一類	544	1,632	18	1,614
文科二類	327	984	6	978
文科三類	432	1,303	15	1,288
理科一類	1,025	2,564	4	2,560
理科二類	492	1,730	17	1,713
理科三類	80	321	10	311
合 計	2,900	8,534	70	8,464

注：外国学校卒業学生特別選考を除く。

また、外国学校卒業学生特別選考については、第1次合格者80人のうち、第1種33人は2月25日(月)に小論文、第2種41人は2月25日(月)・26日(火)に小論文と学力試験に取り組んだ。欠席者は6人(第2種6人)である。なお、3月16日(土)には、上記の受験者全員に面接が行われ、合格者の発表は、3月23日(土)に行われる。



東京大学教職員を代表して挨拶をする、左から小間副学長、佐々木総長、廣渡総長特別補佐、坂本事務局長



左から廣渡総長特別補佐、ボランティアの方、福島先端科学技術研究センター助教授(右から3人目)、韓国からの留学生、大学院工学系研究科・チョン ヨンミさん(右から4人目)

第2次学力試験（前期日程）の合格者、同（後期日程）第1段階選抜結果の発表

平成14年度本学入学者選抜の第2次学力試験（前期日程）の合格者2,913人の受験番号が、3月10日（日）12時30分頃、本郷構内で掲示により発表された。

また、同時に第2次学力試験（後期日程）の第1段階選抜合格者の大学入試センター試験受験番号・試験場コードも掲示により発表された。

なお、各科類の合格者数等は次のとおりである。

第2次学力試験（前期日程）合格者数等

科 類	募集人員	合格者数	最高点	最低点	平均点
文科一類	544	544	460.9500	349.6375	376.9710
文科二類	327	327	418.4000	332.6250	353.0836
文科三類	432	433	440.7250	332.5750	356.6637
理科一類	1,025	1,032	492.9125	334.4000	364.9871
理科二類	492	497	445.3750	332.4500	357.2468
理科三類	80	80	474.2250	399.8625	424.8694
合 計	2,900	2,913			

第2次学力試験（後期日程）第1段階選抜合格者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	第1段階選抜			合格者科類別成績		
				合格者数	不合格者数	本学前期日程合格による不合格者数	最高点	最低点	平均点
文科一類	61	1,209	19.8 (12.7)	433	469	433	550	490	505.06
文科二類	38	500	13.2 (7.8)	205	103	205	467	412	427.70
文科三類	53	750	14.2 (10.3)	204	281	204	558	489	506.68
理科一類	122	1,696	13.9 (6.7)	876	207	876	489	436	454.88
理科二類	59	586	9.9 (6.9)	179	110	179	482	417	439.10
理科三類	10	156	15.6 (13.0)	26	80	26	492	460	471.18
合 計	343	4,897	14.3 (8.7)	1,923	1,250	1,923			

注：倍率欄の（ ）内は本学前期日程試験合格者数を除いた倍率

2001年度留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（冬学期）（第33期生）の修了証授与式行われる。

留学生センターでは、昨年10月から本年度冬学期を開講していたが、このほど、全日程を終了し、2月22日（金）15時30分から、社会科学研究所大会議室において、35名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の廣渡総長特別補佐のほか、関係教官らが列席、小島センター長挨拶に続いて修了者ひとりひとりに小島センター長から修了証が手渡されたあと、廣渡総長特別補佐から祝辞が述べられた。廣渡総長特別補佐は、自らの外国留学経験にも触れながら、「この約半年は、苦しいけれど楽しくもあったことと思うし、重要で一生思い出に残るものになるであろう」と述べて、外国で生活すること、新たな外国語を学習することに伴う苦勞をねぎらうとともに、このあと本格的に専門の研究にいそしんだり、大学院進学を目指したりする修了者を励ました。

ついで、留学生センター市川教授の講評のあと、各クラスの代表者が日本語でスピーチを行い、やりとげた大いなる喜びと少しだけの別れの寂しさ、クラスメートとの思い出やこれまでの苦勞などが語られ、和やかな雰囲気の中に式は終了した。引き続き学生会分館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれた。これには廣渡総長特別補佐及び坂本事務局長も参加され、修了者による日本語のかえ歌なども披露されて大いに盛り上がり、時の経過も忘れるほどではあったが、やがて刻限となり、一同名残りを惜しみつつ、散会した。

なお、今期の修了者35名の所属は以下の11研究科、出身は以下の20の国である。

法学政治学研究科	4名	韓国	4名
工学系研究科	4名	中国	5名
人文社会系研究科	4名	モンゴル	1名
理学系研究科	1名	インドネシア	2名
農学生命科学研究科	8名	マレーシア	1名
経済学研究科	2名	タイ	2名
総合文化研究科	4名	バングラデシュ	2名
教育学研究科	1名	スペイン	1名
数理科学研究科	1名	フランス	5名
情報理工学系研究科	5名	ベルギー	1名
学際情報学府	1名	イギリス	1名
		ノルウェー	1名
		スウェーデン	1名
		スイス	1名
		ドイツ	2名
		オーストラリア	1名
		ウクライナ	1名
		ロシア	1名
		チリ	1名



クラス1代表、シャオリ・シャヒド

（バングラデシュ、人文社会系研究科）

先生方、留学生センターのスタッフのみなさん、こんにちは。クラス1のだいひょう、バングラデシュのシャオリと申します。

今月の18日、留学生センターでの5か月間の日本語の勉強が終わりました。留学生のみなさん、うれしいでしょうか。毎日7時におきなくてもいい、込んでいる電車で早く大学へ来なくてもいい、それにしゅくだいもないですね！…うれしいでしょうね。でも私は18日から「ちょっとさびしい」と思っています。はじめはうれしかったですが、あとでクラスの友達に会えないし、先生方と話せないし、それから毎朝留学生課の人にコンピュータールームのかぎをあけてもらって、メールチェックもできません。

クラス1には私たちは4人いました。4人は4つの国だから、ときどき先生と自分の国のことを話して、日本とみんなの国の文化をもっとよく知ることができました。それで、みんなはとてもいい友達になりました。みんな、先生方にいつもおかしい質問をして、よく困らせました。すみません！！

でも先生がたはいつもにんたいぶよく答えてくださいました。先生方は親切で、ちゅういぶかく教えてくださいました。

日本語の勉強ははじめはとてもたいへんでした。でも

先生方のおかげで、私たちはひらがな、カタカナと250くらいの漢字と会話と文法のきそをがくしゅうしました。

日本語を勉強しただけでなく、先生方と日本の有名なところ、日本の生活と文化と社会について、話して、よくふかくすることができました。日本語のきょうかしよもこの点についてとてもゆうえきでした。文化クラスのじゅぎょうもおもしろかったし、楽しかったです。

日本に来たときは、日本語をぜんぜん話すことができなかったので、私はとても心配していました。でも、今、日本語を話したい気持ちが強いです。留学生のみなさん、私と同じ意見でしょうか。きっとそうだと思います。

私たちクラス1の学生は教えてくださった先生方に心からかんしゃします。ほんとうにどうもありがとうございます。

先生方、留学生センターのスタッフのみなさん、留学生のみなさん、これからもよろしくおねがいします。



クラス1-S代表、リー ヒィ チョル
(韓国、農学生命科学研究科)

皆さんこんにちは。

ただいまご紹介いただきました、クラス1-Sの韓国の李と申します。きょう、クラス1-Sの代表としてスピーチをすることを本当にうれしく思います。

まず、私をこんなに皆さんの前で話せるようにしてくださいました6人の先生方に深く感謝いたします。

私は9月28日、成田空港に着いた時、これからのことが心配でした。すべてが新しく見えました。人間は必ず環境に適應するそうですが、それでも心配でした。

東大に着いたときから、はじめの2週間ぐらいはとてもさびしかったです。音楽をききたくても韓国からもってきたラジオカセットをぜんぜん使うことができませんでした。なぜならば、日本の電気せいひんは全部100Vですから国のものは合わなかったためです。皆さんもしていますが、一人で音楽もない、テレビもないへやの中にいるのは本当にさびしいです。

11月になってたくさんともだちに会えるようになりました。これは日本語のクラスのためです。いろいろな国からたくさん留学生がきました。

1-Sクラスは私を含めて全部で10人です。最初は11人でしたが、1人は理由があって出てこなかったです。きょう一緒にここにいればよかったのですが……。

とにかく、きょうは修了式です。皆がうれしそうです。

去年の11月から、1-Sクラスで日本語を勉強し始めてもう4か月が過ぎました。皆さん、本当に時間がはやいでしょう。この間に私たちはとても楽しくおもしろかったです。また、こんなにみじかい時間に私たちが日本語で話せるようになったことは、6人の先生の上手な教え方のためと考えます。

恐らく、今から日本の生活に自信があるでしょう。またある人のようにかみをきるときに必要なだつしゃしんももういらないます。

皆さん、われわれはもうはじめより日本語がだんだんうまくなりました。それでも、もう少しねっしんに勉強して日本の生活および自分の専門につかえるようにするのはどうですか。

きょうは修了式です。皆さん、修了おめでとうございます。では、これでスピーチを終わります。先生、それから事務室の皆さん、どうもありがとうございました。



クラス2代表、ポンサック・レックサクルチャイ
(タイ、情報理工学系研究科)

皆さん、こんにちは 私は情報理工学部の学生で、タイのホンと申します。今日、私はクラス2の学生たちの代表としてお話ししたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

まず、日本語のコースの生活についてお話します。コースのはじめからクラスでいろいろ勉強しました。先生がたは日本語の文法やいろいろな場合に適当な言い方などを教えてくださいました。

しかし、このクラスで勉強したのは日本語だけではありませんでした。ほかの大切なことも習いました。たとえば、日本文化や日本の生活についても勉強しました。

クラスでは いろいろなおもしろい練習をしました。最初の会話の練習は郵便局でした。私たちは教科書の会話をつかって手紙を出して、エアログラムや切手などを買いました。私ははじめて国に手紙を出しました。

その時、ある友達は五十円切手を二枚買うつもりでしたが、まちがえて、五百円切手を二枚も買ってしまったので、千円払わなければいけませんでした。とても高かったですね。

それから、インタビューの練習もしました。その時、海外旅行についてインタビューをするために、私と友達

は日本人に話しかけました。友達にはんたいに日本人にインタビューをされてしまって、びっくりしました。

また、クラスで書く練習や話す練習や読む練習などもしました。とても楽しかったです。私は時々宿舎に帰ると、部屋で日本の歌を歌う練習をしました。先生がた私の上手な歌のテープが聞きたかったら、お教えください。

クラスにはいろいろな国から来ている友達がありました。みんなに会えて、本当によかったと思います。みんなはやさしくて親切でした。ときどき、それぞれの国の歴史について話しました。フランス語とマレーシア語と中国語とスペイン語のおもしろい言葉も教えてもらいました。また、クラスの外でも会っていっしょに勉強したり、旅行に行ったりしました。

私には全部いい思い出になりました。この経験がいつまでもわすれられないでしょう。

しかし、私たちは先生がたにもうしわけないこともしてしまいました。時々、クラスの中でおしゃべりをしたり、宿題を忘れて、午後の授業におくれたりしました。先生がたはあまりおしかりになりませんが、本当にすみませんでした。

さて、日本語の集中コースも終わってしまいました。私たちは今、日本語が前よりずっとできるようになりました。

私は頭があまりよくないのに、クラスのおかげで 今日このようなスピーチができるぐらい日本語が話せるようになりました。

私たちはほとんどみんな今まで日本語を一年間ぐらいしか勉強していません。ですから、日本語のレベルは二歳ぐらいの日本の子供と同じかもしれません。ときどき、そう考えると、心配になります。でも、すぐ自分に「がっかりするな。」と言うようにしています。いっしょうけんめいがんばったら、きっと日本語がだんだんできるようになるはずだからです。私はこれからもぜひ日本語の勉強をつづけようと思っています。みなさんも私といっしょにがんばっていただきたいと思います。

さいごになりましたが、先生がた、事務のかたがたにおれいを申し上げます。

いじょうです。どうもありがとうございました。



クラス3代表、エラ・ルイーゼ・ネビル

(イギリス、総合文化研究科)

私はイギリスのエラ・ネビルと申します。どうぞよろしく申し上げます。

私は4年前、駒場のAIKOMプログラムに参加しました。その、日本でのすばらしい1年が終わって、国へ帰りましたが、日本についてもっといろいろなことを知れたかったので、ロンドン大学のSOASというカレッジで日本学を勉強しました。

ロンドン大学で修士をとって、そのあと、イギリスで仕事をしていましたが、ずっと日本と日本語について興味を持っていました。

それで、仕事をやめて、日本に戻ることにしました。そして、今、東京大学で勉強をつづけています。

私がAIKOMプログラムで日本に来たときは、日本がはじめてで、日本のことや日本語について何も知りませんでした。わからないことがいっぱいあって、私は何もわかりたかったので、先生やほかの留学生や、イギリスの母にも電話で、いつも質問をしていました。「どうして、どうして、どうして」と。

でも、今回、2度目に日本へ来たときは、少し違います。日本に住むのが長くなるにしたがって、だんだん日本のことや日本の文化や日本人のことがわかるようになりました。

日本人の考え方や習慣が、イギリス人の私には、その通りにはできないけれど、それは日本人の考え方として、理解することができるようになりました。そうなることによって、日本での生活がだんだんやさしくなってきたように思います。

クラス3の仲間には、私のほかにスウェーデンのヨアキムさん、スペインのラケルさん、ドイツのスタンさんがいます。全部ヨーロッパから来た学生です。

スウェーデンのヨアキムさんは日本に何度も来たことがあります。スペインのラケルさんとドイツのスタンさんは、日本に長く住むのは今回がはじめてです。

この二人は日本についていつも新しいことに気がつきます。この間、このスピーチをするためにクラス3のみんなに質問をしました。

「日本に来て、一番おどろいたことは何ですか。」

「一番おどろいたことは、東京には日本人が多いことです」とスタンさんが答えました。「東京には人が多い」ではありません。「東京には日本人が多い」です。みなさん、わかりますか。

私たちはヨーロッパのいろいろな町に住んでいますが、人々は色々な国から来ているので、日本のように一つの国の人だけが多い、ということはないのです。

クラス3の授業では、いろいろなおもしろい話が出ていました。クラス3の学生は、自分の意見をはっきり言うのが好きなので、新しい文法や単語を勉強しながら、日本の社会とか政治を批判しました。先生方もおもしろい意見を出してくださったので、たいへん勉強になりました。

ヨアキムさんは、「クラス3でヨーロッパのことをたくさん習った」と言っていました。私たちはヨーロッパ人なのですが、日本へ来て、留学生センターのクラス3で、みんなと話すことによって、ヨーロッパのこと、自分の国のことをいろいろ知ることができました。

私たちの中でよく出た話題は、NHKのクローズアップ現代という番組についてでした。この番組のテーマについてや、国谷さんという女性キャスターがすばらしいという話もしました。番組のトピックでは、フリーターについての話がおもしろかったです。なぜかという、私たちもフリーターだからです。私たちは30歳近くにもなるのに、とくに仕事を持っていないからです。

でも、このような知的な話をたくさんしたにもかかわらず、テストの成績があまりよくなかったのはごんねんですね。

このコースが終わってからも、クラス3の学生たちはみんな日本語の勉強を続けたいと思っています。私たちはセンターで勉強ができて、非常に運がよかったです。

留学生センターのみなさん、先生方、そして、ボランティアのみなさんに、心からお礼を申し上げます。たいへんお世話になって、どうもありがとうございました。



クラス4代表、ユ ゲツ (中国、法学政治学研究科)

皆さん、こんにちは。

私は中国から参りましたユウケツと申します。今日はクラス4の代表として、クラスメートたちの半年ほどの勉強について話をさせていただきます。今度のクラス4の最大の特徴は全員女性だったことです。センターの日本語コースが開かれてから初めてのことでそうです。女の子ばかりでちょっとアンバランスだったかもしれませんが、私たちがの楽しい生活を送ってきました。初めは8人でしたが、大学院の入試などで、最後には4人になってしまいました。

ロシアのナタリアさんはさすがに言語学科出身ですから、日本語のほかに英語もフランス語もよくできます。いつも熱心に勉強している姿を見て、やはり努力は成功の最大の支えだと思えます。フランスのマリレーヌさんは私と同じ法学部の研究生で、今年の秋の試験も一緒に受けることになっています。日本の政治思想史は難しそうですが、マリレーヌならどんな難関でも越えると信じています。ノルウェーのマリートさんは本当に日本語の

詳しいところまで知っていますし、難しい文法もよくできます。

途中でやめたアメリカのケリーさん、漢字の勉強まだ続けていますか。カナダのエイミーさん、ブラジルのクラウジャさん、専門の勉強は忙しいでしょうね。またいつか会いたいなあ。中国に帰ったハンさん、今ちょうど中国のお正月ですから、食べすぎないようにしてください。

先日お台場で行われた中国のお正月パーティーにマリレーヌ、マリート、ナタリアと一緒に出席しました。私が英語を聞き取れないところをみんなは優しくきちんと通訳してくれました。このようなクラスメートと一緒にしたから勉強も楽しくできました。私たちはお互いに「マリレーヌ」「ユウケツ」などと「さん」をつけないで呼んでいました。

クラスでは、毎日、はじめの時間を利用して、その日の新聞の見出しを拾いました。特に一月からは、新聞を使って、私たち学生が交代でプレゼンテーションをし、ディスカッションをしました。私自身の専門は商法なのですが、政治にも、社会問題にも興味があります。新聞を利用してのディスカッションのときは、日本の外務大臣・次官更迭人事から世界のことまでいろいろ話しました。ヨーロッパの女性から、女性と政治、女性と社会などの問題についての考え方を聞いて、自分の視野も広がって、本当にいい勉強になりました。みんな、ありがとう。

一番感謝したいのはクラス4の四人の先生方です。先生方は私たちに向くような適当な教材を作って、一生懸命教えてくださいました。特に菊地先生に敬語を教えていただきましたので、これから目上に会ったときも丁寧な日本語で話せると思っています。大島先生、太田先生、増田先生も、私たちのどんなにつまらない質問にも必ず答えてくださいました。今の自分がこんなふうにいる前に立って日本語で話せるのは半年前には想像もできなかったことです。自分が気づいていないうちに日本語が少しずつ上手になってきました。先生方のおかげです。ありがとうございました。

また、センターの先生方とともに、事務室の方々にも心からお礼を申し上げます。

皆様、大変お世話になりました、どうもありがとうございました。



特別コース代表、デービット・ギアヴァッチ

(スイス、法学政治学研究所)

皆さん、こんにちは。

まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は去年、ヨーロッパの真中にあるスイスから東アジアの端にある島国の日本に参りました、特別コースのギアヴァッチと申します。東京大学の法学政治学研究所の研究生として国際比較の視点から日本の入国移民について研究しております。今日、特別コースの代表として発表できることを、大変光栄に思っております。実は、私は特別コースの一番下手な学生なので、先生方は練習のために私に発表させることになされたのかもしれませんが。

冬学期の特別コースをご指導くださった先生方は、市川先生、大島先生、菊地先生、前田先生でした。特別コースの授業は週に二回でした。火曜日の授業は日本語を読むことに集中し、金曜日の授業は日本語を書く練習が中心でした。ほかのコースと比べると、特別コースの授業はコマ数は多くありません。ですが、今ふり返ってみると、驚くほどたくさんのテーマについて新聞の記事や論説を読んだり作文を書いたりしたことに気づきます。

クラスで扱われたテーマの一部は、現代日本の社会にある、大切な問題を含んでいると言えます。たとえば、私の専門に近いことですが、外国人労働者を入国させるべきかどうかについて面白い記事を読みました。そのほか、

- ・最近不況で特に増えてきた若者の失業率に対して、どんな対策をとるべきか
- ・小学校と中学校のレベルが教育改革の後で低下してきたかどうか
- ・飛び入学や飛び級は画一主義のはびこる日本の教育に風穴を開けられるか、あるいは、平等主義教育システムを終わらせて、競争過熱の原因になるか

こういったことも授業のテーマになりました。そういうわけで、特別コースは内容の面で、日本語と共に現代日本についても勉強したと言えるでしょう。

世界的なハイテクの国として知られている日本にいるので、もちろん技術、人間、自然の三者の関係もクラスで触れられました。現代社会に影響を与えられる技術的なイノベーションとして、携帯電話が授業の話題になっただけでなく、回転寿司で使われているロボットも紹介していただきました。私にとって特に面白かったのは、日本の小学生が記憶により鶏をどのように描くかという調査についての作文でした。

日本語を習っている外国人、特に西洋からやって来た人々にとっては、敬語の正確な使い方は一つの大きな日本語の問題です。日本語をある程度話したり書いたりできても、相手に頼みたいことや自分の考え方を礼儀正しく言葉で表現するのは、とても難しいことです。だから、特別コースに限った問題ではないので、あえて言うまでもないことですが、コースのおかげで、私だけではなく学生は皆その面で上達しました。

私は日本で何回も日本語のコースに参加しました。普

通は、そのコースにはアジアから来た人々がたくさんいたので、色々と興味深い経験をすることができました。つまり、東洋と西洋の間の相違や文化による考え方の違いを学ぶ一方で、人間はどこから来ても、同じ基本的な生き方があるということも教わりました。残念ながら、冬学期の特別コースは、西洋で育った人が大多数でした。けれども、授業では専門によるいろいろな違いを感じました。自分の専門は自分の考え方や問題の解き方に非常に大きな影響を与えたいと思います。同じテーマについて作文を書いても、それぞれの専門の色合いが出てきます。その面で、特に面白かったのは、自分の専門についての短い発表でした。とてもよい日本語の練習になっただけでなく、他の学生の発表を聞くことで視野を広げることができました。まるで別な世界をのぞく窓が開いたようでした。

お話してきたように、特別コースでは日本語と共に色々なことを勉強できました。特別コースの皆さんを代表して、留学生センターと先生方に心から感謝を申し上げます。私たちはコースが終わっても、ぜひ日本語の勉強を続けたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いたします。



≡ 掲示板 ≡

平成14年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について

下記要項のとおり募集しますので、所属部局を通じ、研究協力部国際交流課国際学術掛まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

平成14年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者募集要項

1. 趣 旨

東京大学大学院学生の国外における学会報告及び各種研究上の調査に対し、東京大学学術研究奨励資金から学資を給付し、もって大学院学生の国際学術交流及び研究・教育の充実を図るものとする。

2. 応募資格

東京大学大学院に在籍する学生

3. 給付する学資

①平成14年6月から平成14年11月、及び、②平成14年12月から平成15年5月までに行われる国外における学会報告及び各種研究上の調査を行うために必要な経費のうち、渡航に要する費用の一部（エコノミークラスのディスカウント航空運賃を基準）を給付する。（留学のための旅費である場合を除く。）

4. 給付予定者数

各研究科（学府）、若干名とする。

5. 申請手続

学資の給付を希望する者は、下記の書類を所属研究科（学府）委員会委員長を経由して総長に提出する。

(1) 提出書類

- ア 申請書(様式1) 2部(原本1部及び写1部)
イ 説明書(様式2) 2部(原本1部及び写1部)
なお、当該学会・調査の概要を記載した要項等がある場合は、添付すること。

(2) 提出期限

給付区分	渡航期間 (出発月)	提出期限
①	平成14年6月	平成14年4月2日(火)
	平成14年11月	平成14年4月17日(水)
②	平成14年12月	平成14年9月17日(火)
	平成15年5月	平成14年10月3日(木)

なお、①において給付が決定した者は、②の渡航期間について申請することができない。

(3) 提出先

所属研究科（学府）事務部

6. 選考及び結果の通知

給付対象者の選考は、所属研究科（学府）の意見を尊重して、東京大学学術研究奨励資金実施委員会において書類審査のうえ、総長が決定する。選考の結果は、所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、①については5月下旬に、②については11月下旬に、申請者あて通知する。

7. 計画の変更・中止

申請した学会報告・調査を変更又は取り止める場合は、選考中あるいは給付決定後を問わず、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告し、その指示を受けること。

8. 報告書の提出

学資の給付を受けた者は、帰国後、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を経由して、総長に報告書を提出すること。

9. 問い合わせ先

所属研究科（学府）事務部又は事務局研究協力部国際交流課

第2回 ミュンヘン大学・東京大学シンポジウム「大学の倫理」のご案内

平成13年度東京大学学術研究奨励資金の援助を受けた東京大学シンポジウムとして、「大学は、時代と社会に、そして大学で学ぼうとする者にいかに応え、地球と人類の平和と福祉のために貢献する知の共同体をいかに構想すべきか」を問うシンポジウム「大学の倫理」を以下のように開催いたしますので、ふるってご参加くださいませようご案内いたします。

2002年3月21日（木）～23日（土）

会 場 東京大学山上会館（本郷キャンパス内）

主 催 東京大学

実行委員会委員長 仁田道夫

（東京大学社会科学研究所長）

連絡先 東京大学社会科学研究所事務部

E-mail t-sato@iss.u-tokyo.ac.jp

TEL 03-5841-4902 FAX 03-5841-4905

プログラム

3月21日（木）

14：00～17：00 開会と基調報告

開会の挨拶 宮島 洋（東京大学副学長）

基調報告 蓮實重彦（東京大学前総長）

Andreas Heldrich（ミュンヘン大学学長）

益川敏英

（京都大学基礎物理学研究所長）

17：30～ レセプション

3月22日（金）

9：30～12：00 第1セッション

「グローバル化と大学」

17時05分～18時45分

報告 古田元夫
 (東京大学大学院総合文化研究科長)
 Bachtiar Alam
 (インドネシア大学日本研究センター長)
 Franz Waldenberger
 (ミュンヘン大学日本研究センター教授)
 Michael von Bruck
 (ミュンヘン大学宗教(新教)学部教授)

修業年限 2年
 出願資格 ①東京大学後期課程在学学生または卒業者
 ②他大学の在学学生で①と同等の資格を持つ者
 または卒業者
 出願期間 4月1日(月)～5日(金)
 筆記試験 4月12日(金)13時30分～17時00分
 試験科目 英語(外国人は日本語)
 基礎学力(前期課程修了程度の社会科学、人文科学の基礎知識)
 面接試験 4月18日(木)9時30分～
 (筆記試験合格者に対して行う)
 募集要項は社会情報研究所庶務掛にて配布中

コメント Carol Gluck
 (コロンビア大学東アジア研究所教授)
 13:30～16:00 第2セッション
 「大学教育——現状と改革の理念」

報告 藤田英典
 (東京大学大学院教育学研究科長)
 岡本和夫
 (東京大学大学院数理科学研究科長)
 Hendrik Birus
 (ミュンヘン大学言語・文学部教授)

(社会情報研究所)

コメント Klaus Vollmer
 (ミュンヘン大学東アジア研究所教授)
 16:30～18:00 第3セッション
 「科学の倫理——大学と社会」

報告 西尾茂文(東京大学生産技術研究所教授)
 北川善太郎(名城大学法学部教授)
 Axel Schenzle
 (ミュンヘン大学物理学部教授)

3月23日(土)

9:30～12:00 第4セッション「21世紀の大学像——われわれは何をなすべきか」

報告 池端雪浦(東京外国語大学学長)
 廣渡清吾(東京大学総長特別補佐)
 Wilhelm Vossenkuhl
 (ミュンヘン大学哲学部教授)

コメント Peter Portner
 (ミュンヘン大学日本研究センター長)

13:30～15:00

総括討論

総括コメント・挨拶 佐々木毅(東京大学総長)

使用言語/日本語・ドイツ語(同時通訳)・英語

(社会科学研究所)

社会情報研究所教育部研究生募集

社会情報研究所では、平成14年度教育部研究生を次のとおり募集します。

研究生には、マス・コミュニケーションについての教育指導を行います。

講義日程 毎週月曜日～金曜日
 15時15分～16時55分

平成14年度総合図書館オリエンテーションのお知らせ

下記のとおり、総合図書館オリエンテーションを行います。予約は不要です。

「総合図書館の利用案内」(利用案内)「書庫の案内・利用法」(書庫)「国際資料室の資料とインターネット・CD-ROMによる検索」(国際資料室)

	月	火	水	木	金
	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12
9:45~10:15	利用案内				利用案内
10:15~10:45	書庫				書庫
10:45~11:15		利用案内			
11:15~11:45		書庫			
13:30~14:00			利用案内		
14:00~14:30			書庫		
15:30~16:00				利用案内	
16:00~16:30				書庫	
16:30~17:00	利用案内		利用案内		利用案内
17:00~17:30	書庫		書庫		書庫
	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19
9:45~10:15				利用案内	利用案内
10:15~10:45				書庫	書庫
10:45~11:15	利用案内		利用案内		
11:15~11:45	書庫		書庫		
13:30~14:00		利用案内			
14:00~14:30		書庫			
15:30~16:00	利用案内		利用案内		
16:00~16:30	書庫		書庫		
16:30~17:00					利用案内
17:00~17:30					書庫
	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26
10:45~11:15	国際資料室	国際資料室		休館日	
15:30~16:00	国際資料室	国際資料室			

・集合場所：情報サービスカウンター前（総合図書館1階）

・問い合わせ先：情報サービス課参考調査掛

内線22647, 22648

e-mail: sanko@lib.u-tokyo.ac.jp

4/22~24、26は、予約制で利用案内を実施します。上記問い合わせ先に電話かメールでお申し込みください。
(4/22, 23は国際資料室の前後の時間)

(総合図書館)

総合図書館開館時間変更について(お知らせ)

総合図書館では、入退館ゲート更新工事のため、下記の通り開館時間を変更いたします。

平成14年3月21日(木) [春分の日] 午後1時開館
(開館時間 13:00~19:00)

宮川 正 名誉教授

本学名誉教授、宮川 正（ただし）先生は平成14年1月2日に老衰のためご逝去なさいました。享年88歳でいらっしゃいました。先生は大正2年2月8日に広島県呉市でお生まれになり、東京都飯倉でお育ちになりました。昭和12年に東京帝国大学医学部医学科をご卒業になり、同大学助手を経て陸軍軍医として戦時医療に従事されました。昭和21年より逓信省病院、国立東京第一病院を経て、昭和28年に横浜市立大学医学部教授とされました。昭和31年に東京大学医学部放射線科教授にご就任になり（放射線医学講座を担当）、昭和40年より中央放射線部部長も兼務されました。昭和48年に東京大学を停年退職された後に埼玉医科大学教授にご就任になり、同年東京大学名誉教授とされました。その後東京船員保険病院院長を経て、昭和53年再び埼玉医科大学放射線医学教授にご就任されました。昭和55年同大学附属病院副院長を兼務され、看護専門学校の教育主事として看護職の育成にも貢献されました。昭和58年埼玉大学附属病院院長に、平成元年に同大学学長代行に就任されました。平成5年に埼玉医科大学名誉教授を授けられました。



先生は放射線治療学の分野をご専門とされ、食道癌を始め多くの悪性腫瘍の放射線治療の照射術式・線量配分に関する業績を多く残されました。昭和30年代より放射線・放射線汚染に関する調査を重ね、主として骨髄と生殖腺の被爆に関して「X線診断・放射線治療による国民線量の調査研究」として報告されました。また、学術会議、厚生省、及び科学技術庁の専門委員として環境汚染

対策にも大いに寄与されております。日本核医学会（旧核医学研究会）、日本放射線影響学会、日本頭頸部腫瘍学会（旧頭頸部腫瘍研究会）及び日本癌治療学会の創設に盡力され、各々理事、監事、評議員あるいは名誉会員として医学界に多大な貢献をされました。昭和37年から日本医学放射線学会の理事として指導的役割を果たされると共に、昭和44年国際放射線医学会財務委員長として重責を果たされました。昭和40年第5回日本核医学会総会会長、昭和45年第30回日本医学放射線学会総会会長を歴任されました。このように先生は永年にわたり、国公立全ての機関で放射線医学の分野において教育・研究・診療に携わり、その学識と人格によって多くの優れた医学徒を生み出されました。永年に亙る放射線医学の進歩と発展への多大な貢献と医学教育の改善における功績に対して平成元年に勲三等旭日中綬章を授けられております。

先生はパウロという洗礼名をおもちの熱心なクリスチャンであられました。その暖かいお心は、後輩や患者さんはもちろん接する人すべてを優しく包みこむものでした。また様々な創意工夫としゃれたお言葉で皆さんを楽しませる真のhumourの持ち主でもいらっしゃいました。最愛の奥様とお嬢様に看取られて安らかに最期のときを迎えられたのも、まさに神の御心であったように思われます。

先生のご逝去は、後進にとりまして医師として医学者として進むべき方向を示す重要な道標を失ったとの感を深く致します。ここに長年に亙る先生のご指導に心から感謝申し上げますと共に、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院医学系研究科・医学部）

高橋 延清 名誉教授

本学名誉教授高橋延清先生は、1月30日（水）病氣療養中のところご逝去されました。享年87歳でした。



先生は岩手県の御出身で、昭和12年3月東京帝国大学農学部林学科を御卒業後、昭和13年東京帝国大学農学部附属北海道演習林助手として着任されました。昭和17年5月第5代の北海道演習林長となられ、昭和18年8月助教授に昇任、昭和29年教授に昇任され、昭和49年3月停年退官されるまで北海道演習林において研究と教育に従事されました。

また、学外においては北海道林木育種協会会長、社団法人北方林業会会長、北海道自然保護協会理事、北海道

林業構造改善審査会会長等を歴任され、北海道林業発展のため森林・林業関係団体の指導者として、緑化・自然保護・林業問題に関する指導的な役割を果たしてこられました。

先生の御研究は、東京大学北海道演習林における長年にわたる大規模な天然林施業実験から、森林がもつ木材生産の経済性と環境保全の公益性を両立・発展させる「森林施業法」の確立でした。昭和33年から開始した天然林を対象とする林分施業法の成果は、北海道の森林施業法としての地位を確立し、広く世界中に認識され高い評価を得ています。また、北海道の主要林業樹種であるカラマツとグイマツの種間交雑育種による耐鼠性ハイブリッドF1の生産システムを研究開発されました。さらに先生は「プラス木・プラス林分の選抜法」、「林分施業

法「その考えと実際」などの著書を著されるなど、北海道林業発展のために、演習林在職中から退官後も森林関係の諸機関・団体の最高指導者として幅広い活動を続けられました。

これらの功績に対し、第1回朝日森林文化賞、日本学士院エジンバラ公賞、みどりの文化賞、北海道功労賞な

ど数多くの賞を受けられました。誠実・温厚な人柄と豊かな学識経験により多くの人々から「どろ亀先生」と敬愛された先生を偲び、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院農学生命科学研究科)

「大学——この奇なるもの」

世は挙げて「改革」のオンパレードである。それというのも、従来のいわゆる「日本型システム」が「制度疲労」を起こしているためだという。大学といえどもそうした潮流と無縁ではありえない。かつて毛沢東は、急進的な農業集団化に反対する人々を「纏足女」と揶揄した。というのは、旧時、纏足をしていた女性にとって早く歩けないものだから、どうしても他の人のペースについていけず、ついつい「速すぎる、速すぎる」と不満をもらすからである。急速に進む大学改革の動きに、正直言って定年間際の私にはなかなかついていけない部分も多く、纏足女の繰り言の一つでもいいくなる。

とはいえ、これまでの大学のシステムには端から見て、とくに民間企業から見て理解しがたい制度や慣習が多々あるのも事実である。全てを民間企業のようにするわけにはいかないが、一度企業の視点から大学を見直してみるのも一



案ではなかろうか。たとえば複雑化と分業化が進む現代社会に当たって、教授や助教授が何かから何まで責任を持つシステムは「比較優位」の点から見ても非効率である。

あるいは、多大なる労力を払って問題を作り、機会費用で測れば莫大なコストを掛けて実施した試験は、果たして的確に学生たちの能力と潜在性を測っているのだろうか。大学も一つの「産業」と考えれば、卒業生は「商品」になる。しかし本も読まず友達も作らず、将来の方向も分からない学生＝

「欠陥商品」を生産し続けるなら、その「企業」は「消費者」から告発されるかも知れない。逆に、優れた「商品」を作るか、最も高い「付加価値」を「商品」に付けた「製造責任者」には多額のボーナスを出してもいい。

さらに、パーキンソンの法則通りに大学は巨大化していくが、果たしてそれによるメリットはどれだけあるのだろうか。「費用対効果」を考えたとき、大学にも「最適規模」があるのではなかろうか。

中兼和津次（大学院経済学研究科）

（淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

[次号の原稿締切]

3月19日（火）午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1232

2002年3月13日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>